

# 佐藤 公一先生を送る

経済学部長  
阿部 文雄

佐藤公一先生は、平成17(2005)年3月31日をもって、本経済学部を定年により退職されました。先生は、香川大学にご着任以来、教育学部に17年、本経済学部にも10年のあわせて27年の長きにわたって哲学の分野で研究教育を続けてこられました。香川大学は、先生の在職中の多大のご功績に対して本年4月に香川大学名誉教授の称号をお贈りしました。

先生は昭和16(1941)年12月に岡山県小田郡吉田村(現笠岡市)にお生まれになり、岡山県立鴨方高等学校を経て、昭和35年4月に京都大学文学部に入学されました。そして、昭和39年3月に同学部哲学専攻を卒業後、同年4月に京都大学大学院文学研究科修士課程(哲学専攻)に進学されました。昭和42年3月に同修士課程を修了後、さらに同年4月には京都大学大学院博士課程(哲学専攻)に進学されました。そして昭和45年3月に同課程を単位修得退学され、同年4月より、京都大学文学部研修員、日本学術振興会奨励研究員を経験された後、昭和47年4月に熊本女子大学講師に就任され、昭和51年4月には助教授に昇任、そして、昭和53年4月に、香川大学教育学部講師に就任されました。その後、同年10月助教授、昭和57年4月教授にそれぞれ昇任されました。そして、平成7年4月に、本経済学部新たに設置された地域社会システム学科の教授として移籍されました。

先生のご専門は哲学です。先生は、30年以上にわたる研究生活のほとんどを、哲学者デカルトの研究に没頭してこられました。残念ながら、門外漢の私には、先生のご研究を十分理解し紹介することは出来ず、大変申し訳ないことですが、ただ、日頃の先生の立ち居振る舞いや話しぶりから、哲学の一端に触れさせて頂くことも多く、哲学と経済学の考え方やアプローチの違いについて

何度か学問論議をしたことを思い出します。また、本年2月に行われた最終講義では先生のデカルト研究に関する貴重なお話を聞くことができました。先生には、経済学部の学問的雰囲気を通り越して深みのあるものにして頂いたのではないかと感謝いたしております。

教育面では、先生は、教育学部時代、主として教養教育において、哲学や論理学、科学思想関連の科目を講義され、経済学部に来られてからは、教養科目に加えて、専門科目として、西洋思想や人間論、西洋哲学史などを講義されました。また、大学院においても、フランス思想特殊講義を担当されました。経済学部へ移籍されたころは、経済学部生への専門の講義や演習指導に際して、教育学部とは学生気質が異なるため、なにかとご苦労も多かったのではないかと思います。しかし先生は、本経済学部の教育目標でもある「教養ある経済人の育成」におおいに貢献されました。

また管理運営面でも、先生は、労力を惜しまず香川大学のために多大の貢献をしてこられました。教育学部時代には、補導協議会委員や、共通教育部会長、人間文化コース運営委員長や総合科学課程運営委員長、社会科学主任など、そして経済学部に移られてからは専門教務委員などを務められ、学部教育の改善に多大の貢献をされました。とくに、専門教務委員を務められたときには、先生の教育に対する情熱が伝わってくるような説明を教授会で聞くことが多かったと記憶しています。

先生は、経済学部に移って来られてから3年ほどして病気をされ、しばらくの間、大変ご苦労されました。このころ、学内でも高血圧や脳梗塞などの病気で50代の教員が次々に倒れるというニュースがしばしば聞かれる状況でした。当時、体重が激減した先生から闘病生活の一端を聞く機会がありましたが、その淡々とした説明に、療養生活の厳しさとともに、先生らしい生き方を感じたものでした。幸い、回復されて元気になられ本当によかったと思っています。

定年での退職とはいえ、多大の業績を残された先生を失うことは経済学部にとって大きな痛手です。どうかこれからも健康には十分留意されて、私ども後輩のために、引き続き、ご指導・ご鞭撻下さいますようお願い申し上げます。